

小児医療の中でこそみよう こどもの心の診療

黒木春郎

こどもとおとなのクリニック パウルーム

ここに「小児医療の中でこそみよう こどもの心の診療」の特集をお届けすることができました。企画へのご助言、ご執筆いただきました皆様に感謝申し上げます。

近年、小児科領域の心の問題は広がりを見せています。「こどもの心の診療」は、もはや専門施設のみで対応する課題ではなく、一般小児科、小児プライマリ・ケアのなかでこそ対応する課題となっています。その背景には、社会全体の変化とともに疾病構造の変遷があります。メンタルヘルスが医療の中の大きな課題となっています。成人領域でも同様のことが起こっています。疾病構造は常に変遷しているものであり、今、それが顕著になっている時期といえるでしょう。こうした疾病構造の変化に対して、小児医療を担う私たちは常に先行して対応する必要があります。そのためになすべきことが、本特集で多くの皆様から語られています。

今回は小児プライマリ・ケア、小児精神神経領域、児童精神、東洋医学の視点から神経発達症、愛着障害、そしてうつ状態・希死念慮について論考をいただきました。これらを読了するだけで多くの示唆が得られます。意見が異なる場合も有益な討議の始まりとなると思います。また、小児医療・小児医学にとって、新しい領域を取り入れることが大きな発展の嚆矢となるでしょう。

千葉県こども病院感染症科 星野 直先生には本企画のお声がけをいただきました。国立成育医療研究センター総合診療部 窪田 満先生には企画の最初からご相談に乗っていただき、多くのご教示をいただきました。千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部長代理・准教授 佐々木 剛先生、千葉大学大学院医学研究院小児病態学 濱田洋通先生、星野 直先生、窪田 満先生には筆者の総論をお読みいただき、ご教示いただきました。本誌編集委員の先生方とは企画段階での有意義な討議を行うことができました。皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。